

名 称	岩美町家庭教育推進協議会
所 在 地	〒681-0003 鳥取県岩美郡岩美町浦富675-1
連 絡 先	TEL : 0857-73-1302                      FAX : 0857-73-1569

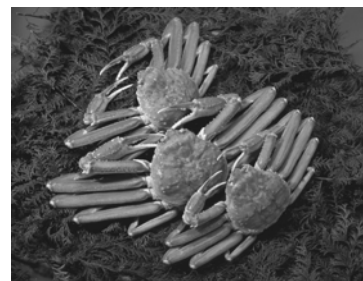
## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口     岩美町   13,493人

岩美町は、鳥取県の東北端に位置し、山陰海岸国立公園を町内に有し、風光明媚な海や山、温泉の自然資源に恵まれた町である。歴史を紐解けば、童謡唱歌の田村虎蔵、初代国連大使の澤田廉三など数多くの偉人を輩出している。

豊かな自然に生まれ、四季折々の自然の恵みも豊富で、特に、冬は松葉がにが特産である。町内各地では、伝統的な獅子舞やかさ踊りなどが脈々と受け継がれ、現在では、小中学生等による子ども伝統教室なども継続的に開催されている。また、少年少女合唱団や、総合型地域スポーツクラブの活動なども近年活発になってきた。

このように豊かな自然や地域文化があふれる町であるが、ここ数年来、年間の出生数も100人を割り、少子高齢化の波が押し寄せ、町の課題の一つである。このような中、町づくりの基本を人づくりに掲げ、「教育の町いわみ」を推進している。特に、学校教育においては、小学校1、2、3年生の30人学級の実施、中学校においては、全学年実施など本町独自で教育予算を措置している。また、各小中学校に特色ある教育活動費として100万円を予算化し、学校の教育活動を支援している。



冬の味覚松葉がに



## 事業の名称、活動概要

名称   赤ちゃんとのふれあい会

近年、児童生徒が抱える大きな課題として、人間関係を相互に構築していくことが非常に難しくなっていることが挙げられる。他者と関わっていくことが苦手であったり、コミュニケーションがうまくとれなかったりするなど、そのことにより、自分に対して自信が持てなかったり不安を抱いたりする子も多い。本事業、赤



小学校でのふれあい会

ちゃんとの交流会では、赤ちゃんやその親との交流を通じて「命の尊さ」や「自尊感情」に視点を置きながら、児童生徒の人間関係づくりを目標に、学校、地域が連携しながら取り組んだ。

## 事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

近年、地域や家庭において子どもを取り巻く状況が大きく変化している中で、子育てを学校や家庭、地域が連携しながら、地域全体で子どもたちを見守り育てていくことが大切だと言われている。子どもたちの現状として、全国的にも、学力・体力の低下、規範意識の低下、コミュニケーション能力の低下、いじめ、不登校、安全確保等、多くの教育課題があげられているが、岩美町の子どもたちについても同じような傾向が見られる。さらには、子育てにおいても核家族化や共働き家庭の増加に伴い、子育てに対する不安や負担感が強まり、子育てを支える地域社会の結びつきや子どもに対する目配りも希薄になり孤立している家庭も少なくない。

このような教育課題を解決していくために、岩美町においては、放課後子ども教室推進事業や家庭教育総合推進事業など、様々な事業をきっかけとして、学校、家庭、地域が連携しながら、子どもたちを育てていく体制を考え、実施してきた。特に家庭教育の充実に向け、連携・協働をキーワードに掲げ取り組んできた。

岩美町では、平成18年度より、小中学校、NPO未来、NPOぷろじえくとえん、岩美町子育て支援センター、町福祉保健部局と連携しながら「赤ちゃんとのふれあい会」を実施してきた。特に学校との連携の中では、この「赤ちゃんとのふれあい会」を教育課程に位置付けていただくことができた。つまり、児童生徒の授業として実施することができた。

岩美町においては、子どもたちの成長段階に併せて様々な取組や支援が施されている中、本取組、赤ちゃんとのふれあい会においては、児童生徒と赤ちゃん及びその保護者を主人公とし、多くの支援組織が相互に関わり合いながら取組を推進していくことを大切にしたい。



福祉保健部局の保健師さんの指導を受けて・・・。



## 事業の内容

### ① 事前準備として行った取組（企画段階）

赤ちゃんとの交流会は、平成18年度より実施している。本年度は「子育て支援団体ぷろじえくとえん」が中心となって企画し、子育て支援センター、教育委員会、福祉保健部局、

学校とが連携し実施した。連携、協働の特色としては次のような点が挙げられる。

- ① ぷろじえくとえんが中心となって企画・運営している。事業の目的や運営方法、学校との打ち合わせなど企画リーダーとして動いた。
- ② 子育て支援センター内のすくすくサポーターが当日の進行をサポートした
- ③ 岩美町家庭教育推進協議会が事業予算を措置し、財政面でサポートした。
- ④ 福祉保健部局より、町の保健師が参加し、健康面でのアドバイスを継続的に行った。
- ⑤ 学校においては、本事業の趣旨を全職員が共通理解し、教育課程の中に正規に位置づけて、事前事後の学習も含めて「授業」として実施した。

## ② 活動の展開内容（活動段階）

「赤ちゃんとのふれあい会」では生徒（岩美中学校2年生）児童（岩美西小学校5年生、岩美南小学校5年生）を対象に、赤ちゃんとの交流会を計画しました。現在子育て真っ最中の0歳児の親から、子育ての喜びや楽しさ、戸惑いなどの話を伺ったり、実際に赤ちゃんを抱っこさせてもらい、小さなぬくもりややさしさを体感します。そして自分が今ここに存在しているという事実がどんなにステキなことなのかを再発見します。

### 生徒の感想



- いやされた感じがした。
- どうふれ合えばいいかが難しかった。
- きてくれるか不安だったけどきてくれてうれしかった。
- 自分が知らない内に笑顔になっていた。
- ほくもこんな時があったのかな。
- 「天使の寝顔」そのものだった。
- 赤ちゃんに関わって優しい気持ちになった。
- 母と子のつながりの強さを感じた。
- おかあさんの目がきらきら輝いていた。
- おかあさんのパワーはすごいと思った。
- 私もあんなおかあさんになりたいと思った。
- 自分もいつかはおかあさんになるのかなと思った。



### 保護者の感想



- 娘に根気よく関わってくれてうれしかった。
- ママ友だちができてうれしい。
- 真剣に向き合ってくれてとってもうれしかった。
- 扱いとまどいながらも中学生の純粋さに感心。
- 将来素敵なお父さんになってくれるような気がした。
- 親にとってもあらためて子どもの目線になれてよかった。
- ずっとお兄ちゃんと遊んでいて我が子の成長を感じた。
- 中学生に見習うことが多かった。親は、365日、変わらない愛を注いでいます。自分もそんなふう育てられたことを忘れないでほしい。

時	会 場	参 加	
H18.6.20	岩美中	中学2年生、親子14組	
6.23	岩美中	〃 親子12組	
6.26	岩美中	〃 親子14組	
7.11	岩美中	〃 親子17組	
7.14	岩美中	〃 親子17組	
7.19	岩美南小	小学6年生 親子14組	
9.28	岩美高	高校1年生 親子15組	<p>〇すごく楽しくて、一緒に遊んでいるといやなことを忘れるくらい楽しかった。「子育ては教科書通りにいかない」と聞いて大変なんだなあとと思った。〇お母さんの目がすごくきらきらしていた。1つの命の尊さ、重たさ、大切さを実感した。また、母と子のつながりの強さを感じた。</p>
10.13	岩美中	中学2年生 親子14組	
10.19	岩美中	中学2年生 親子14組	
10.23	岩美中	中学2年生 親子13組	
11.9	岩美高	高校1年生 親子15組	
11.13	岩美中	中学2年生 親子13組	
11.16	岩美中	中学2年生 親子16組	
H19.6.11	岩美中	中学2年生 親子24組	
6.13	岩美中	中学2年生 親子25組	
6.20	岩美中	中学2年生 親子26組	
6.22	岩美中	中学2年生 親子25組	
6.26	岩美西小	小学5年生 親子28組	
7.6	岩美南小	小学5年生 親子28組	
10.10	岩美中	中学2年生 親子20組	
10.12	岩美中		中学2年生 親子21組
10.15	岩美中	<p><b>年間を通じて継続的に実施することで、自分や赤ちゃんの成長を相互に感じ取ることができました。</b></p>	中学2年生 親子21組
10.17	岩美中		中学2年生 親子22組
10.22	岩美高		高校1年生 親子23組
10.29	岩美西小		小学5年生 親子24組
10.31	岩美高		高校1年生 親子22組

### ③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

- 1) 関係機関が事業の目的を共通理解するとともに、連絡を密にする。
- 2) どこかにお任せではなく、それぞれができることを責任を持って取り組む。
- 3) 児童生徒、赤ちゃん・保護者双方にメリットがあることを双方が体感する仕組みや内容を考えること（負担感を持って向かわないこと）。



## 事業の成果と今後の課題

参加した児童生徒以上に、保護者がとても喜んで積極的に交流して下さった。また、子育て中の母親の居場所（交流の場）ともなり嬉しい結果となった。今後も継続して実施してほしいという声が大半であった。

執筆者職・氏名：岩美町教育委員会主幹兼指導主事 谷口 謙

コーディネーターからの一言コメント

小中学生と赤ちゃんとの触れ合いを学校と地域が連携して進めているが、大きな特色は学校の授業として位置付けていることである。なお、保健師・子育て支援センターのサポーター等の協力は心強い。

(中根 惇子)